

リウマチ

織間医院 織間一郎 先生

広い意味でのリウマチという言葉は運動器に痛みを伴う病気を指していますが、今回は代表的な慢性関節リウマチを取り上げます。慢性関節リウマチは原因不明の病気で、多くの関節に炎症を起こすのが特徴です。症状としては朝のこわばりと呼ばれる長時間同じ姿勢を保った後の手、指などのこわばった感じは患者さんの訴えとして多いものです。また関節炎は多くの場合手指、足趾の小さな関節から始まり徐々に手、肘、膝、足などの大きな関節が痛んでいく傾向があります。この病気の特徴は炎症による関節の痛みだけでなく骨が破壊され徐々に関節の変形を起こすことです。したがって痛みと変形による運動障害が生活の質の低下につながり治療のポイントとなります。またこの病気は時に貧血のほか肺、心臓等に合併症を起こすことがありますので定期的なチェックが必要となります。治療としては関節の運動範囲の維持のための運動療法は必要不可欠なものですが、炎症の強い時期には安静が第一のこともあります。したがって運動療法は専門医の十分な指導のもとで行われることが望まれます。次に薬物療法ですが、その目的は炎症の沈静化、疼痛およびこわばりの除去が主たるものですが、最近この病気の原因の究明が遺伝子工学の発展に伴い飛躍的に進み、それを踏まえた上での治療法が登場してきました。